

豊橋市議会傍聴記

①

地方政治
クリエイト
伊藤 秀昭

豊橋市議会12月定例会は7日から一般質問を行い21人が登壇し、多角度からの議論を展開した。

◆グローバルシテ

最初に登壇した近藤喜典氏(自民)は、豊橋市が目指すべきグローバルシテ豊橋の考え方について聞いた。

議論の中で、市内には中国、フィリピンなどから1331人の外国人技能実習生が滞在していることや、労働者不足による外国人雇用の促進、昨年約14万人の外国人が訪問し、今年はさらに上回っていることなどが答弁された。

近藤氏は農産物の海外マーケットの拡大や、英会話のできる豊橋っ子育成事業は地方創生の差別化の面からも、大きな意味があるとし、市長の海外出張の答弁

はの魅力ある図書館づくりに創意工夫を促し、図書館の在り方が大きく変化していることに敏感に対応すべきと警鐘を鳴らした。

長坂氏は、今回取り上げた4項目すべてに再質問なく終わったが、若者らしい大胆な議論や提案を

グローバルシテ豊橋へ、熱い意欲

からも世界の中の豊橋を印象づけた。

◆直営の強み

長坂尚登氏(豊橋だいき会)は直営で運用されている中央図書館の魅力づくりについて取り上げた。当局の「継続的に安定したサービスが提供できる」のは当然として、知の拠点として直営ならで

期待したい。

◆100万人プロジェクト

宮澤佐知子氏(公明)は、豊橋総合動物園の94万人(1996年)、愛知万博のユカギルマンモスを展示した92万人(2005年)を超え100万人プロジェクトのために、サマー

タイムの導入や好評のモーニングブーなど既存の枠にとらわれない発想で弾力的に取り組むよう要請した。

またゾウ舎の群れ飼育について市側は、国内外から新たに数頭の象の導入を考え、計画通り整備するとした。

5期目の宮澤氏が自分にノルマを課すように、毎回、一般質問に登壇する姿勢は評価できる。

◆インバウンド

増大する訪日外国人や「爆買い」などについて取り上げたのは二村真一氏(自民)。豊橋市では免税店対応できる店舗がいく一部であり、宿

泊客中心に推移しており、市内のホテルは90%を超える稼働率であることから、一般住宅、マンションを旅行者に貸し出す「民泊」について聞いた。産業部長は「旅行業法に抵触する恐れもあり現時点では考えていない」として、小規模ホテ

ル、旅館にも宿泊できる体制を構築していくとした。

二村氏は長期的視野に立った観光立市を目指すべきだと強調したが、納得できないと指摘した。

◆防災・減災対策

小原昌子氏(自民)は防災・減災対策について取り上げた。防災対策ガイド

ブックを活用した取り組み、自治体間連携の取り組みや地震対策アクションプランなどについて議論した。

過日の「防災講演会」で予想される南海トラフ地震は直下型地震であり、避難する際には、倒壊し

たがれきの中を避難することになり、避難ビルの周囲はガレキの海となっている」との指摘があったが、私たちは、もっとリアルに対策を考えるべきだと痛感した。

◆学習支援

鈴木博氏(公明)は6人に一人が貧困家庭で暮らし、保護者の経済格差が子どもの進学などにも影

響を及ぼす「貧困の連鎖」も大きな課題になっているとし、子供の学習支援の取り組みについて取り上げた。

福祉部長は、12年度より生活困窮世帯などの中高生を対象に土曜日の午後にかりオンビルで、また今年度より一人親世帯の中学生を対象に第一、第三土曜日の午後豊橋区市民館で学習支援を行っているとした。

鈴木氏はそれらの取り組みを評価しながら、逆境で頑張る子どもたちへの熱い思いが伝わってきた。

◆率直な教育論

杉浦正和氏(自

民)は、社会状況や教育を取り巻く環境が大きく変化し、家庭教育や地域の教育力をめぐる問題などから、様々な教育課題が生じていると指摘。そのしわ寄せが学校教育にいつているのではないかと「教育の在り方」について問題提起した。

教育長は「本質的な部分にメスを入れない限り、学校教育が果たすべき役割にも影を落とすことにもなる」とし、市長は学校・家庭・地域が連携し、今年度策定する教育の大綱には「市民総ぐるみによる人づくりの取り組み」とするメッセージ性のものにしていくとした。

率直な教育論のぶつかりあいは爽やかだった。